

ビットコイン入門 —1円から送る・使う・投資する— vol.11

『マウントゴックス社の事件で』

文 小田 玄紀 text by Genki Oda

2014年。ビットコインの人氣に「ほんの一瞬」影を落とす出来事がありました。

当時、世界最大のビットコイン取引所だったマウントゴックス社が突然、取引を全面停止し、経営破綻したので。新聞などにも大きな記事が掲載され、騒動となりました。

経営破綻の原因は約75万BTCと現金28億円が奪われたためで、当初、それは外部からのサイバー攻撃で奪われたとされてきました。取引所が通貨を奪われるなんてあつてはならないことで、ビットコインは危ないのではないかと…という声もありました。

しかしよくよく調べてみると、実際には会社による業務上横領だったことがわかりました。顧客が所有しているビットコインを横領し、ビットコインを買うために顧客が取引所に振り込んだ現金も盗んだのです。外部の犯行ではなく、マウントゴックス社という取引所による犯罪でした。

2009年に誕生し、12年後半頃から徐々に認知度が高まってきたビットコインは13年4月に200USD（2万円程度）となり、そこから一気に



Profile
株式会社ビットポイントジャパン代表取締役社長
1980年生。東京大学法学部卒業。大学在籍時に起業し、後に事業を売却した資金を元にマッキンゼー出身者らと共に投資活動を始め。
「頑張れる人が報われる」をコンセプトにして起業家や社会起業家の事業立ち上げ・経営支援を行う。株式、FX、債券などの投資にも精通し、仮想通貨取引にも携わる。2016年3月上場会社子会社として初の仮想通貨取引所であるBitpointを立上げ、同社代表取締役就任する。

取引が増え、13年12月には400USD（4万円程度）にまで人気化していましたが、14年2月にマウントゴックス社が経営破綻を申請した日には、前日の581USD（5万9250円程度）から、558USD（5万6900円程度）に急落。しかし、すぐに600USD（6万円程度）に回復しました。

たとえば、円とドルを交換（両替）する両替所の1つが不正をしたからといって、円やドルの信頼は変わりませんよ。それと同じことです。

ビットコインそのもののセキュリティは維持されており、ブロックチェーンに欠陥があったわけではありません。また、ビットコインだからこのような不正が行われたわけでもありません。

ビットコインでは、ブロックチェーンという技術が使われていることをお話しました。

ブロックチェーンでは、AさんがBさんからIBTC買った、BさんがCさんに10BTC売ったなどの取引の履歴を10分ごとに確定し、記録していきます。10分ごとの取引の記録を「ブロック」にし、それを繋いでいくのが、「ブロックチェーン」です。

つまり、マウントゴックス社がビットコインの価格に与えた影響は軽微だったのですが、それは、ビットコインそのものに問題が生じたわけではないし、ブロックチェーンが優れていることに変わりはない、とユーザーたちが判断したからです。

マウントゴックス社は1つの取引所に過ぎず、マウントゴックス社の破綻はあくまで一取引所の不正横領によるものであり、ビットコインの仕組みが否定されたものではない。

「1時間でわかるビットコイン入門」
「1円から送る・使う・投資する」
（株式会社インプレスより）